昭和興産

昆虫原料ビジネスに挑戦

昭和興産は今年5月に創立80周年を迎えた。田渕明雄会長兼社長は同社が長年存続してきた理由の一つとして「多くの社員がお客様から愛されてきたこと」をあげている。現在推進中の3カ年中期経営計画「SK－CHALLENGE8」は今年度（12月期）が最終年度となるが、目標としていた売上高880億円を1年早く達成している。引き続き5つの重点戦略分野と海外関連ビジネスの強化に取り組んでいく方針だ。

同社の2022年度の業績は合成樹脂、化学品、産業資材の各事業が前年度に比べ増加し、その結果増収増益を達成、中計の目標を上回る売上高を計上した。

中計では重点戦略分野として環境関連、情報・通信、メディカル・ヘルスケア、国内インフラ、モビリティを設定している。環境関連では親密メーカーと連携した廃プラのインフラ用途での活用や、製紙メーカーとの協働によるセルロースナノファイバー（CNF）の樹脂改質剤としての利用拡大への課題解決に注力する。農業関連ではインドネシアで現地企業と組んだハーブビジネスについて今秋の具体化を目指し検討を加速させる。

新規分野へのチャレンジとしてこのほど昆虫原料ビジネスに進出した。イスラエルのFlying Spark社と連携し、同社がタイで製造するフルーツフライを原料とするパウダーとオイルを水産養殖用飼料や化粧品原料として販売していく。

海外展開ではアジアでの存在感向上を目指し拠点を順次増設、各拠点とも順調に業容を拡大している。今後はベトナム駐在員事務所の現地法人化について見極めを行うとともに、台湾、フィリピン、韓国、インドなどへの進出を検討していく。

社内体制では22年からエンゲージメント調査を開始した。また教育面では集合研修などの研修制度を充実させ社員同士のつながりを深める。女性社員の活躍に関しても女性管理職誕生など着実に進んでいる。